



重心は固まらず変化していく

ダブル・ライフ

借りたアナタに触れたとき、やっと見えた本当のワタシ

監督・脚本・編集 余園園

菊地敦子

松岡真吾

古川博巳 若狭ひろみ

撮影 小濱匠 美術 関作宇 周曉彤

音楽 川島陽 振付 砂連尾理

宣伝デザイン 千葉健太郎

宣伝 よしのまどか

協力 万田邦敏

2022年 日本映画 DGA | ONZ | ANTI | KANSAI | KANSAI
©2022 ENEN FILMS

INTRODUCTION

レンタル夫との二重生活を送る中、他者の体に触れ相手の心を感じ取る身体的かつ心理的アプローチを通して、自身の新たな感情に気づいてゆく女性の姿を描いた、心の解放と蘇生の物語。

監督は、中国の名門・北京電影学院を卒業後、立教大学の大学院に進んだ余園園。本作は2019年に「人間レンタル業」を描いたヴェルナー・ヘルツォーク監督作品『ファミリーロマンス社』に着想を得て作られた。結婚生活に不満を持つ主人公・詩織を菊地敦子が演じ、彼女が一時心を許すレンタル夫を松岡真吾が演じる。

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2022にてワールドプレミア上映。見事、国内コンペティション部門で最優秀長編作品賞を受賞したほか、第35回東京国際映画祭、タリン・ブラックナイト映画祭2022に正式出品。昨年イタリアで開催されたバーリ国際映画祭にて監督賞を受賞。

二人の夫の間を彷徨い

暗闇を抜けたとき

一羽の蝶が蘇る

離婚届や蝶の絵を目の前にして、登場人物たちはダブルライフの儂い夢から覚め、いまここに立ち戻った自分をいまそこで意識しているのだ。

結局のところ、ひとつの今とひとつのここと身ひとつがあるばかりなのだ。

—— 万田邦敏 (映画監督)

『ダブル・ライフ』は、是枝裕和を継承し、濱口竜介と同時代に生きる、余園園が映し出す女性身体の物語。詩織は「演じること」「触れること」によって自分自身の身体の重心を取り戻す。ダンスする彼女の身体が、複雑な曲線をえがくように歓びに満ちた運動をスクリーンに投影するとき、私たちは深い感動にいざなわれるだろう。

—— 北村匡平 (映画研究者/批評家)

STORY

一緒に行くはずだったワークショップを夫にキャンセルされた詩織(菊地敦子)は、同僚から紹介された代行業者の淳之介(松岡真吾)に夫役を依頼。淳之介に満足した詩織は夫に内緒でアパートを借り、彼と疑似夫婦生活を始める。夫とレンタル夫との間を行き来する二重生活を送る中で、詩織は封印したかつての夢や、心の奥底に眠る新たな感情に次第に気づいてゆく……

菊地敦子
松岡真吾 古川博巳 若狭ひろみ
浅田麻衣 川口紗弥加

監督・脚本・編集:余園園

撮影:小濱匠 照明:村澤慎太郎 録音:西田壮汰 助監督:小林勲太 制作:小林德行 美術:間作宇周 映形 撮影助手:永原大祐 録音応援:菅谷拓人 日本語協力:伊藤駿 整音:磯沼瑞希 上戸幸輝 カラリスト:潘澤穠 音楽:川島陽 ピアノ:川島有希枝 振付:砂連尾理 宣伝デザイン:千葉健太郎 宣伝:よしのまどか 協力:万田邦敏

2022年 | 日本・中国 | DCP | 104分 | アメリカンビスタ | ステレオ ©2022 ENEN FILMS

doublelife-enenfilms.com

4月19日 金 公開

連日舞台挨拶あり ※詳細は劇場HP・公式Xにて

吉祥寺PARCO B2F

UPLINK 吉祥寺

0422-66-5042 joji.uplink.co.jp

